

麦の安定生産を目指して！ 今後の栽培管理

令和5年1月
東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

生育は概ね平年並みです。2月からの3か月予報では気温はほぼ平年並みが見込まれますが、生育状況に応じた「排水対策」、「雑草防除」、「適期追肥」で、安定生産を目指しましょう。

1. 排水対策の徹底

湿害を回避するために、排水溝の点検を行い、必要により土入れを兼ねた排水溝の補修を行いましょ。

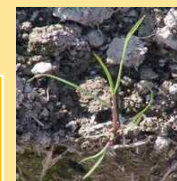


土入れを兼ねた排水溝補修

2. 中期雑草の防除

雑草の種類と葉齢を確認して、処理する時期を逃さないように雑草防除を行いましょ。

薬剤	対象雑草名	使用時期/回数	使用量 (10a当 たり)	散布水 量(10a 当たり)
ハーモニ-DF	一年生広葉雑草 スズメノテッポウ	麦3葉期～節間伸長前（スズメノテッポウ5葉期まで）/1回	5～10 g	100 ℓ
アクチノールB 乳剤	一年生広葉雑草	一年生広葉雑草の発生揃、ヤムグラ2又は3節期（穂ばらみ期まで）/2回以内	100～ 200ml	70～ 100ℓ



スズメノテッポウ



ヤムグラ

- ※1 ハーモニ-DFを散布した器具は、使用後速やかに消石灰水500倍液でよく洗浄してください。
- ※2 アクチノールB乳剤を散布後、雑草が多い場合に再度散布する時は、1週間以上間隔をおいて使用してください。
- ※3 カラスノエンドウとスズメノテッポウの同時防除の場合には、10a当り100ℓの水にハーモニとアクチノールを溶いて散布してください。

3. 追肥

11月中下旬の適期播種の場合は、栽培しおりに基づき、基準どおりの追肥を施用してください。乾きにくい土壌での湿害など、はだか麦で黄化症状がみられる、小麦で下葉枯れや葉色が薄い場合は、早めに追肥を施用しましょ。

播種時期	麦種	生育状況	肥料の種類	追肥の時期、量
11月中下旬 (適期播種)	はだか麦	通常	基準どおり（追肥体系の場合は2月下旬～3月上旬に1回追肥）	
		黄化症状がみられる	速効性肥料	追肥を1回増やし、1月中旬に追肥基準量の半分（窒素成分で1.5kg/10a）程度を施用し、3月上旬に残り半分を施用。
	小麦	通常	基準どおり（追肥体系の場合は1月上中旬、2月下～3月上旬の計2回追肥）	
		下葉枯れ、葉色が薄い	速効性肥料	1月中旬に窒素成分で1.5kg/10a程度を増肥し、残りは基準どおり2月下旬～3月上旬に施用。
			基肥一発肥料	速効性肥料を1月中旬に窒素成分で1.5kg/10a程度を施用。



はだか麦の黄化症状
※下葉が黄色くなります



小麦の下葉枯れ
※葉色が全体に薄く、葉や茎の一部が紫色になります

※播種時期が早い、または遅い場合は、生育に合わせて、追肥時期と量の調節をお願いします。